

大阪がん患者団体協議会のご紹介

平成27年3月27日 大阪府がん対策推進委員会

発表者 渡邊美紀（のぞみの会）
山本ゆき（山本孝史のいのちのバトン）

当協議会は、大阪府下のがん患者団体21団体で構成する
連合体です

がん患者・家族のQOLの向上のために、

1. その声をがん行政に反映すること
2. 加盟団体の連携により、その活動の充実・推進を図ることを目指しています

会の略歴

平成23年8月～26年3月

大阪がん患者・家族連絡会（前身）

※患者委員は、この会から選出されておりました

平成26年4月～現在

大阪がん患者団体協議会

世話人

代表 三木祥男（口腔咽頭がん患者会会長）
山本ゆき（山本孝史のいのちのバトン代表）
渡邊美紀（乳がん患者会「のぞみの会」代表）

大阪府がん対策推進委員会・部会委員

大阪府がん対策推進委員会委員

山本ゆき（山本孝史のいのちのバトン代表）

渡邊美紀（乳がん患者会「のぞみの会」代表）

緩和ケア推進部会委員

栄田美枝子（がん患者・家族を支援する会・かわち）

患者支援検討部会委員

中村弘子（水琴窟の会）

がん診療拠点病院部会委員

辻恵美子（がん患者サポートの会「ぎんなん」）

小児がん部会委員

三浦素子（がんの子どもを守る会）

肝炎肝がん対策部会委員

原井川英司（大阪肝臓友の会）

がん検診・診療部会オブザーバー

川相一郎（がんと共に生きる会）

26年度 主な活動

● 府民へのアピール

平成26年6月 ホームページの開設

訪問者数：8か月間で600人

➤ 患者委員の報告

➤ 他のがん患者団体及び新規団体への呼びかけ

● 平成26年9月21日 公開シンポジウム開催

「もっと知ってほしい！

患者会のこと、ピアサポートのこと。」

● 平成27年2月11日 街頭イベントに参加

“まちかど「がん相談室」in 大阪” 緩和医療学会主催

活動（１）

公開シンポジウム

「もっと知ってほしい！

患者会のこと、ピアサポートのこと」

開催日：平成26年9月21日

会場：府立成人病センター講堂

主催：大阪がん患者団体協議会

共催：近畿(大阪大学)がんプロフェッショナル養成基
盤推進プラン

後援：大阪府 / 大阪府立成人病センター

プログラム

総合司会：中村弘子(水琴窟の会)

第1部 基調講演「がん患者会の意義と課題」
兵庫医科大学准教授 大松重宏

第2部 がん患者会 事例発表

- がんサポートの会「ぎんなん」辻恵美子
(大阪市立大学医学部附属病院)
- 乳がん患者会「のぞみの会」 渡邊美紀 (大阪赤十字病院)
- 「口腔・咽頭がん患者会」 三木祥男 (大阪府立成人病センター)

第3部 パネルディスカッション

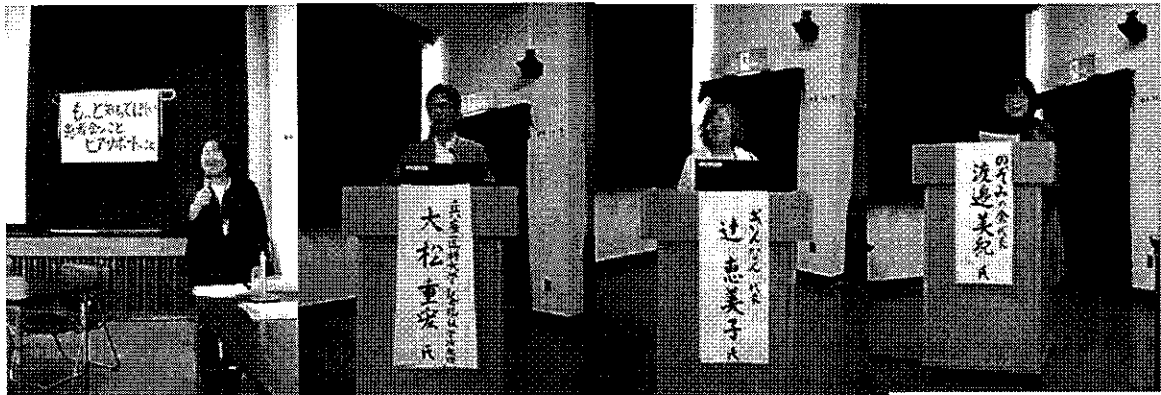
大松重宏 (兵庫医科大学社会福祉学)
松浦成昭 (大阪府立成人病センター総長)
撫井賀代 (大阪府健康づくり課長)
辻恵美子 (発表者)
渡邊美紀 (発表者)
三木祥男 (発表者)

コーディネーター：山本ゆき

大阪がん患者団体協議会

140名の参加で満席

於：府立成人病センター講堂



基調講演

兵庫医科大学 大松重宏准教授

- 「ピアサポートとは、お互いに支え合うこと」であり、ピアサポートを提供する人がピアサポートを受ける人と上下関係にあるのではなく、対等な関係にあること。
- ピアサポートを受けているうちに、自分自身ががん患者会を意味ある場として認識するようになり、ピアサポーターへ変化するものである。
- がん患者会の運営上の課題
 - ①人材不足
 - ②活動資金の不足
 - ③活動内容のマンネリ化
 - ④新規会員の減少

患者会事例（１）

がんサポートの会「ぎんなん」 辻恵美子

大阪市立大学医学部附属病院

- ステージⅣの乳がんを経験
- 自分は一人ではない。社会のためになることをしようと決意、乳がん患者会を始める。
- 待合室の男性がん患者が暗い顔をしていることに気づき、全がん種を対象とする会「ぎんなん」へ移行。
- 信念「患者に寄り添う」「現場を離れて患者会はない」
- ルール「仲間を裏切らない」「仲間はずれを作らない」
「初心を忘れない」「沢山の人を巻き込む」
「がんと共に生きる」

患者会事例（2）

乳がん患者会「のぞみの会」 渡邊美紀

大阪赤十字病院

- 30数年の歴史
- 毎月乳がんに関わる医療者に講師に来ていただいて定例会を開催し、9年ほど前から毎月、会報を発行。
- エピソード：会員ががん相談支援センターに「ピアサポートのことを勉強したいので、講演をしてほしい」と頼みに行った⇒「あなたたちがやっていることがピアサポートですよ」と言われた。
- 患者には上も下もない。互いがピア。
- 大阪60拠点病院にがん患者会はいくつあるのでしょうか？
- 患者は患者会がほしいのです。

患者会事例（3）

口腔・咽頭がん患者会 三木祥男

府立成人病センター

- 頭頸部がんは、いつまでも続く障害でQOLの低下が著しい希少がん
- 近畿一円ばかりでなく埼玉県や島根県から新幹線で来る患者、茨城県から飛行機で来る患者もいる。
- 9年間の会の出席者の推移をグラフで示す。
→ 挫折と復活の繰り返しの歴史
- 2年半前にホームページを開設、大きな反響を得る。
- ピアサポート充実のために実践している6種類のプログラムについて写真を付けて解説。
- 一番大切なことは、どんなプログラムを用意するかということであり、専門的ピアサポーターの養成ではない。
- がん患者自身がピアサポーターである。

パネルディスカッション

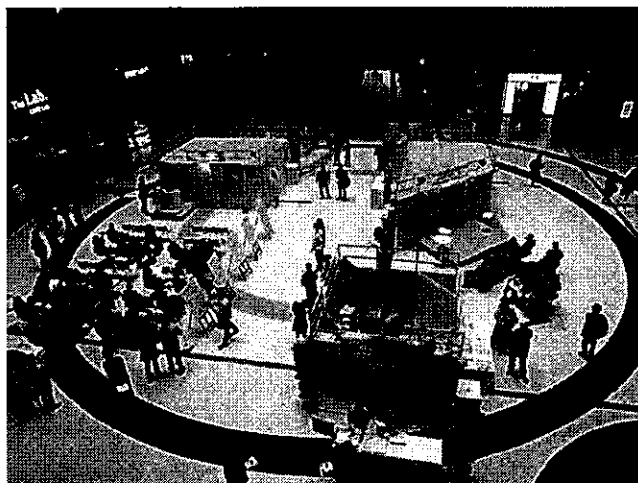
- (松浦総長)
大松先生のお話から、いろいろな課題があることも教えていただいた。
自分たち医療側の視点からの情報提供が多いと痛感した。
患者会の皆さんを大事にしたい。
- (撫井課長)
今後、がん患者当事者と医療者と行政で役割分担で隙間のないように取り
組んでいきたい。今日出席出来て良かった。
- (大松准教授)
院内患者会の良さ、地域の患者会の良さ、全がんの患者会の良さ、特定の
がんに特化した患者会の良さが今日分かった。それにプラスして、病院側
とどう折り合いをつけて行くかがむずかしいところと思う。
- (コーディネーターまとめ)
60の国と府の拠点病院のうち、相談支援センターが患者会などと連携し
ているのは約半数。今後、すべての拠点病院に患者会・サロンの設置を進
めていかねばならない。このイベントを機に、患者・行政・医療者の連携
を深めていく必要性を確認できた。

活動(2)

街頭イベントに参加

緩和医療学会主催 まちかど「がん相談室」in大阪
大阪グランフロント北館1階ナレッジプラザ
平成27年2月11日

会場の全景



ミニ講演の風景



大阪がん患者団体協議会

展示ブース

当協議会も展示ブースに出展

- 病気に伴う心や身体の痛みを和らげる「緩和ケア」の街頭キャンペーン
- がん患者・家族に限らず、多くの方がミニ講演を聴いたり、悩みの相談やブースの見学に訪れていた。
- 11時から17時まで、8つの相談ブースは予約でいっぱい。男性の相談者が多かったという。
- 当協議会の展示ブースにも多くの方が立ち寄り、説明を受けたり、各団体のパンフレット・チラシを持って帰られた。



←当会の
展示ブース

隣接の大阪府→
の展示ブース



活動（3）

勉強会&総会

平成27年3月26日（府立成人病センター中講堂）

1. 口腔・咽頭がん患者会のアンケート調査報告
～ピアサポートが患者の内面に及ぼす影響について～
三木祥男（口腔咽頭がん患者会）
2. 米国のピアサポートの現地調査報告
～ミシガン大学ヘルスシステムにおけるケアシステム～
増田悦子（大阪肉腫会）

ご清聴、ありがとうございました。

今後とも、大阪がん患者団体協議会並びに患者会活動にご理解を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。